



ぼくじょう なかま はなし  
牧場の 仲間たちの お話

みず の ば きんぎよ  
水飲み場の 金魚

わたしは 兄たちと、金魚ばちで 金魚を 飼っていました。  
金魚を 見るのは 楽しい ものです。ある日 わたしたちは、  
乳牛の ベツイガ 水を 飲むために 使っていた、外の  
水飲み場に 金魚を 移すことになりました。

町の 友だちが わたしたちの 牧場を 訪れると、ベツイガ  
水を 飲む 時に 金魚を 飲みこんで しまわないことに  
びっくりします。もちろん、そんな ことは 起こりません。  
牛が 水を 飲む 時は、水面から 水を 吸い上げるように  
して 飲むからです。金魚にとって、飲みこまれないように  
するには 簡単なのです。



ある 冬の ことです。夜の 間に、気温が ものすごく 下がりました。それで、水飲み場の 水が こおつてしましました。兄たちと わたしは、  
金魚が どうなつて しまったかと、納屋に かけつけました。金魚たちまでが こおつてしまつたのを 見て、わたしたちは 悲しく なりました。  
死んでしまつたに ちがいないと 思つたからです。



ベツイに 水が 必要だろうと、父は 水飲み場に 水を 流し入れました。  
それで、氷が 少しづつ 解けてきました。

その後、金魚が どうなったと 思いますか?  
水が 解けると、金魚は また、泳ぎ出したのです。  
い 生きていたのです！

神様が 造られた 生き物の おどろくべき  
一面でした！



「神は 海の 大いなる  
けもの 獣と、水に 群がる  
すべての 動く  
い もの 生き物とを、  
しゅるい 種類に したがって  
どうぞ 創造された。」

(口語訳聖書、創世記 1:21)

